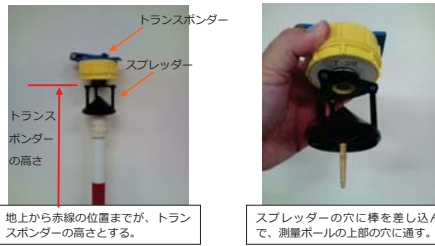


●バーテックスによる斜距離、水平距離、角度の計測方法

□ 立木がプロット内に含まれるかを判断する際、プロットの中心杭と円周部立木との斜距離を計測するために実施する。

□ まず、中心杭に測量ポールとスプレッター、トランスポンダーを設置する。この際、トランスポンダーの高さ（図参照）を確認しておくこと。下草などに邪魔されず、円周部の立木の位置に立つバーテックスから見通せる高さが望ましい。



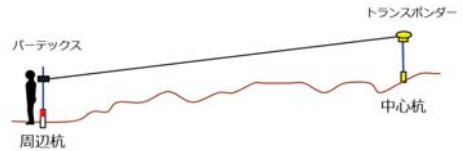
□ 計測者はまずバーテックスとポールを持ち、まず円周部の立木の位置立つ。測量ポールを使って、バーテックスをトランスポンダーと同じ高さに設置したうえで、トランスポンダーを視準し、斜距離を計測する。



□ プロットの中心杭と周辺杭との斜距離、水平距離、角度を計測する際、トランスポンダーの高さは、バーテックスの「SETUP」の T. HEIGHT の高さとは関係ないので、T. HEIGHT の設定 1.2m（北海道は 1.3m）を変更する必要はない。



バーテックスとトランスポンダーは同じ高さで斜距離となる



以下はバーテックスの操作説明

**バーテックスの電源投入「HEIGHT」画面表示**

ボタンを押してバーテックスを起動する。「HEIGHT」画面が表示される。

**トランスポンダーを視準（赤十字線）**

視準孔をのぞき、赤十字線で中心杭にあるトランスポンダーを視準する。

**斜距離、水平距離、傾斜を計測**

ボタンを長押しすると、「P」という音とともに赤十字線が消える。画面に以下の表記が現れる。

|     |       |         |
|-----|-------|---------|
| SD  | 5.7   | SD 斜距離  |
| HD  | 5.5   | HD 水平距離 |
| DEG | -15.7 | DEG 角度  |
| H1  | 7.0   |         |

斜距離 (SD) を確認する。

※本マニュアルは平成30年12月時点のものであり、今後随時見直しを行うものとしています。

別添2

● 森林生態系多様性基礎調査野帳様式

林野庁

| 様式                      | 現地調査記入 | 備考  |
|-------------------------|--------|---|
| 様式1-1 調査プロット到達経路情報      | ●      |   |
| 様式1-2 調査プロット到達経路情報 (地図) |        | 地図をスキャンし (電子地図の利用も可)、入力プログラムで取り込み、印刷する                        |
| 様式1-3 調査プロット到達経路情報 (写真) |        | 写真データを入力プログラムで取り込み、印刷する                                       |
| 様式2-1 調査プロット情報          | ●      |   |
| 様式2-2 調査プロット情報 (見取り図)   | ●      |   |
| 様式2-3 調査プロット情報 (写真1)    |        | 写真データを入力プログラムで取り込み、印刷する                                       |
| 様式2-4 調査プロット情報 (写真2)    |        | 写真データを入力プログラムで取り込み、印刷する                                       |
| 様式3-1-1 立木調査表           | ●複数枚   |   |
| 様式3-1-2 タケ調査表           | ○      | 異なる種のタケが1プロットに存在する場合、または林分が分割される場合は2枚以上必要                     |
| 様式3-2 立木調査総括表           | ●      | 林分が4、5分割される場合は2枚必要  |
| 様式4 伐根調査表               | ●      |   |
| 様式5 倒木調査表               | ○      | 特定調査プロットのみ (項目別調査1~3も該当) 項目別調査4 (伐採跡地、自然災害) は全プロットを特定調査プロット扱い |
| 様式6 土壌侵食及び下層植生調査表       | ●      | ただし全域が森林の植生調査区のみを対象   |
| 様式7 資料調査表 (面積最大の小班)     |        | 現地調査の事前に記入しておく  |

- 現地調査時に必ず記入する様式
- プロットの条件により記入する必要がある様式

2019年4月様式

| 様式1-1 調査プロット到達経路情報                     |  | 調査年月日    | 天気       |
|--|--|----------|----------|
| 格子点ID                                  | 通常 一般 1特殊 2河野林 3賽道 4複乱   |          |          |
| 調査点種別                                  | 特定 項目別 5その他 (1民回廊 2混交林化 3高齢級)  |          |          |
| 現地調査実施者                                | 所属 氏名  | 主査       | 植生・直径・樹高 |
| 元請責任者ではなく、現地調査を実施した全員                  | 所属 氏名  | 主査       | 植生・直径・樹高 |
|  | 所属 氏名  | 主査       | 植生・直径・樹高 |
|  | 所属 氏名  | 主査       | 植生・直径・樹高 |
| 1 到達目標                                 |  |          |          |
| 座標 (世界測地系)                             | N: 度 分 秒   | E: 度 分 秒 |          |
| 前回調査野帳から書き写し                           | 前回調査時のGPS計測中心杭位置・計画格子点・項目別新規   |          |          |
| 2 到達情報 写真番号は「様式1-3」、留意事項は「様式1-2」と一致させる |  |          |          |
| 留意事項                                   | 継の有無 (有の場合は所有者名及び連絡先)、近隣挨拶の必要性 (地区長等への連絡) 等  |          |          |
| 様式1-2に因示                               |  |          |          |
| GPS機種                                  |  |          |          |
| 経路/車道名など                               | 座標 (世界測地系) (分、秒は小数点表記でもよい) / GPS補正機能   | 写真番号     | GPS番号    |
|  | N: 度 分 秒 E: 度 分 秒  |          |          |
|  | なし・海保Geo-MSAS・GLONASS・平均化・後補正  |          |          |
|  | N: 度 分 秒 E: 度 分 秒  |          |          |
|  | なし・海保Geo-MSAS・GLONASS・平均化・後補正  |          |          |
|  | N: 度 分 秒 E: 度 分 秒  |          |          |
|  | なし・海保Geo-MSAS・GLONASS・平均化・後補正  |          |          |
|  | N: 度 分 秒 E: 度 分 秒  |          |          |
|  | なし・海保Geo-MSAS・GLONASS・平均化・後補正  |          |          |
|  | N: 度 分 秒 E: 度 分 秒  |          |          |
|  | なし・海保Geo-MSAS・GLONASS・平均化・後補正  |          |          |
| 3 調査プロットの基本情報                          |  |          |          |
| 中心杭                                    | 到達不可能または非森林の場合は記入しない   |          |          |
| 位置座標                                   | N: 度 分 秒   | E: 度 分 秒 |          |
| 世界測地系                                  | なし・海保Geo-MSAS・GLONASS・平均化・後補正  |          |          |
| 調査の継続状況                                | 継続調査・到達不可能 (下欄記載、状況写真撮影)・新規 (森林外から森林へ変化など)   |          |          |
|  | 再設定=調査地点位置変更 (理由: 発見困難、他 { })<br>再設定=調査地点位置変更なし (理由: 円周杭修正により胸高直径18cm以上の立木本数が変わる、GPSで中心杭再設定、他 { })<br>再設定の詳細内容                     |          |          |
| 到達不可能理由                                | 非森林 (農地、人工改変地などに化した場合、状況写真を撮影、伐採跡地は継続調査。)  |          |          |
|  | a: 調査地点が地形的に通常の手段で到達できないところに所在<br>b: 法的規制による立ち入り禁止、c: 現状で到達不可能だが、今後の再確認が必要<br>d: 一時的に到達経路等が不通または危険な状況が発生、e: その他<br>x: 所有者の了解が得られない |          |          |
| 状況写真撮影プロット調査を実施できる場合、非森林の場合は記入しない      | 詳細内容 (※a-xの各選択枝にかかる詳細内容を記述)  |          |          |

様式1-2 調査プロット到達経路情報(地図)

|   |       |
|---|-------|
| 格子点ID   | 調査年月日 |
| 詳細図(駐車位置から調査プロットまで)   |       |
| <p>※ 1/5,000の地図を使用</p> <p>※ 調査プロットへの到達の目標となる地物や経路を記入し、適宜、GPSの座標位置や写真番号等を添える。(次回調査時に使用しますので、できるだけ詳しく書いてください。)</p> <p>※ 既設歩道の有無など</p>   |       |
| 概略図(市街地から駐車位置、調査プロットまで)   |       |
| <p>※ 1/20,000~1/25,000の地図を使用</p> <p>※ 調査プロットの位置と経路を色鉛筆で示す。また、必要に応じて写真番号やGPSの座標値等を記入する。</p> <p>※ 鍵の位置、近隣挨拶の必要性(地区長等への連絡)等、様式1-1到達情報/留意事項の該当箇所を示す。</p> <p>※ 路面状況(砂利、狭い、荒れているなど)など</p> |       |

様式1-3 調査プロット到達経路情報(写真)

|  |       |      |    |
|--|-------|------|----|
| 格子点ID  | 調査年月日 | 枚中   | 枚目 |
| 写真番号:  |       | 写真貼付 |    |
| -----  |       |      |    |
| -----  |       |      |    |
| <p>※1 写真の1枚目は、調査当日の調査員の姿態等が分かる集合写真とする。</p> <p>※2 様式1-1、2到達情報の写真番号と一致させること。</p> <p>※3 最後の写真は、<b>中心杭とその周囲の状況がわかる写真</b>を撮影し貼り付けること。</p> |       | 写真貼付 |    |
| 写真番号:  |       |      |    |
| -----  |       |      |    |
| -----  |       | 写真貼付 |    |
| -----  |       |      |    |
| -----  |       |      |    |

様式2-1 調査プロット情報

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 格子点ID   | 調査年月日                 |
| 1 地形概況  |                       |
| 斜面方位<br>大地形   | 斜面傾斜<br>大地形 度         |
| 局所地形<br>平地地・平坦尾根・やせ尾根・山腹凸斜面・山腹凹斜面<br>山腹平衡斜面・山脚侵蝕面・山脚堆積面・崖錐                              |                       |
| <p>※ 斜面方位は斜面下方の方位を8方位で記載、大地形に基づく斜面方位とする。</p> <p>※ 斜面傾斜は斜面方位の方向を計測。前向きを書き写さず、毎回計測する。</p> |                       |
| 2 プロットの半径   |                       |
| 最大傾斜<br>継続<br>(プロット設定時の野<br>儀から書き写し)<br>新規設定・再設定<br>の場合                                 | 度                     |
| 最大傾斜<br>(°)   | 度                     |
| 半径【斜距離】(m)  | 円弧部分の<br>膨らみ<br>(m)   |
| 小円 中円 大円  |                       |
| 0~2   | 5.64 11.28 17.84 1.36 |
| 3~7   | 5.65 11.31 17.88 1.36 |
| 8~12  | 5.69 11.37 17.98 1.37 |
| 13~17   | 5.74 11.48 18.15 1.38 |
| 18~22   | 5.82 11.64 18.40 1.40 |
| 23~27   | 5.93 11.85 18.74 1.43 |
| 28~32   | 6.06 12.13 19.17 1.46 |
| 33~37   | 6.23 12.47 19.71 1.50 |
| 38~42   | 6.45 12.89 20.38 1.55 |
| 43~47   | 6.71 13.42 21.22 1.62 |
| 48~52   | 7.04 14.07 22.25 1.69 |

様式2-2 調査プロット情報(見取り図)

|       |       |   |               |
|-------|-------|---|---------------|
| 格子点ID | 調査年月日 | 円周囲の立木の見落としが無いよう、円周囲の膨らみに注意。(様式2-1表を参照) | 円弧部分の膨らみ<br>m |
|-------|-------|---|---------------|

3 林分占有率【調査プロット情報(見取り図)(様式2-2)より】

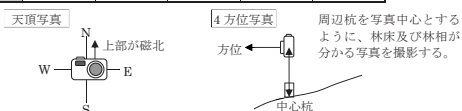
| 分割   | 優占種<br>土地区分 | 点格子数        |            |            |
|------|-------------|-------------|------------|------------|
|      |             | 小円部<br>ドーナツ | 中円<br>ドーナツ | 大円<br>ドーナツ |
| 林分1  |             |             |            |            |
| 林分2  |             |             |            |            |
| 林分3  |             |             |            |            |
| 林分4  |             |             |            |            |
| 林分5  |             |             |            |            |
| 森林以外 |             |             |            |            |
| 合計   |             | 20          | 60         | 120        |

様式2-2における各円の点格子数を数えて、点格子数を記入する。  
小円(+)20点、中円ドーナツ(×)60点、大円ドーナツ(+)120点分布。  
※ 小円境界線上の点格子は、小円・中円の両方に0.5点ずつ振り分ける(見取り図の●)。  
※ 林分分割した場合でも、林分1+...+林分n(+森林以外)の合計が、各円(ドーナツ)に配分された点格子数を超えることはありえない。

林分占有率の%は、点格子数を入力プログラムに入力すると、プログラム上で計算される。

4 写真撮影確認

|      |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|----|----|
| 撮影方向 | 天頂 | 磁北 | 磁東 | 磁南 | 磁西 |
| 撮影確認 |    |    |    |    |    |
| 写真番号 |    |    |    |    |    |

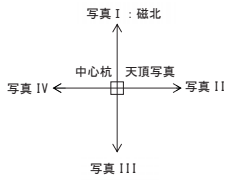


- 見取り図へ記載する内容
- 林分分割の必要があれば、林分位置を記入する。(基準は下表参照)
  - 対象とした**植生調査区**を実線で囲う。原則として、対角に位置する2植生調査区(原則N区、S区)を対象。
  - 林分分割や非森林には関わらずとも、林道、作業道、歩道、堰堤等構造物、沢、岩場・崖、地形が急に変化する地点など**プロット概況の把握に必要な地物**を記入する。
  - 立木調査により立木番号を付した立木(胸高直径18.0cm以上、樹高を測定した標準木)のうち標準木については**立木位置**を記入する。

| 有無    | 分割の基準   |
|-------|---|
| 分割あり  | ・ 樹種構成が大きく異なる<br>・ 林齢が大きく異なる(およそ10年以上)  |
| 非森林区域 | ・ 調査プロット内に森林以外の土地が含まれる場合は、区分する<br>・ 林道、法面、畑、建物数など   |
| 分割なし  | ・ 林相が異なっていない、変化の幅があり、その幅が概ね10m以上ある<br>・ プロット内に上層木の消失により生じたギャップが含まれている場合(自然要因か人為的要因かは問わない、列状間伐、風倒木など)、分ける必要はない<br>・ 林道(非森林に区分)などによって分割されているが、分割ありの条件に該当しない場合<br>・ 複数の小班をまたぐが、分割ありの条件に該当しない場合 |

様式2-3 調査プロット情報(写真1)

Table with 2 columns: 格子点ID, 調査年月日



※中心杭位置から磁北を上として天頂を撮影し、下の貼付欄へ貼り付けること。
※格子点を中心として東西南北方向に各1枚写真を撮影し、北方向の一枚については下の貼付欄へ、東西南方向については、様式2-4に貼り付けること。
※方位については、全てコンパスによる測定で確認する。
※撮影方向が手前の幹などでさえぎられる場合、避けて撮影してよい。

調査点天頂写真(天頂方向)

Large rectangular area for pasting photos, with labels for 写真貼付 and 調査点天頂写真(天頂方向).

様式2-4 調査プロット情報(写真2)

Table with 2 columns: 格子点ID, 調査年月日

調査点写真II(磁東方向に撮影)

調査点写真III(磁南方向に撮影)

調査点写真IV(磁西方向に撮影)

Large rectangular area for pasting photos, with labels for 写真貼付 and 調査点写真II, III, IV.

様式3-1-1 立木調査表

Table with 4 columns: 格子点ID, 林分番号, 調査年月日, 調査区画

胸高直径: 小円 1.0cm以上、中円 5.0cm以上、大円 18.0cm以上 樹高: 分割の場合林分ごとに20本以上小径木が密生している場合、小円1/4内を通常通り調査し、5cm未満30本以上あれば残りの3/4内5cm未満立木は省略可能。ただし、小円内5cm以上の立木は省略してはならない。

Main table for tree survey with columns for tree ID, species, diameter, height, and other attributes.

様式3-1-2 タケ類調査表

Table with 4 columns: 格子点ID, 調査年月日, タケの種類, 林分番号

マダケ、モウソウチク、ハチクを対象とする。
その他ササ、タケ類は胸高直径が測定対象に達する場合でも立木調査の対象とせず、下層植生調査で記載する。
※異なる種が1つのプロットに存在する場合には、種ごとに野帳を作成する。
※林分を分割した場合も、林分ごとに野帳を作成する。

1 本数

- 対象となるタケ類の種名と得本数を区画ごとに記録する。
生枯を分ける必要はない。
枯損していても地面に自立している種は計数の対象とする。
タケノコ状態の種も、各円の計測対象の直径に達していれば、計測対象とする。
胸高直径: 小円 1.0cm以上、中円 5.0cm以上、大円 18.0cm以上。

Table for bamboo count with columns for area and number of stems (small, medium, large).

2 胸高直径及び桿高

- 胸高直径は、群落全体から30本選択して計測する。
種を分けた場合は種ごとに、林分を分割した場合は林分ごとに30本選ぶ。(桿が30本以下の場合は、全ての種を計測する。)
桿高は、群落の中で最上層に到達していると思われる健全桿を5本選んで計測する。
種を分けた場合は種ごとに、林分を分割した場合は林分ごとに5本選ぶ。(桿が5本以下の場合は、全ての種を計測する。)
※桿高は、桿の長さではなく、桿の垂直高を計測すること。
※直径を計測する種と桿高を計測する種を一致させる必要はない。

Main table for bamboo diameter and height survey with columns for No., diameter, area, and height.

Table for bamboo height survey with columns for No., height.

様式3-2 立木調査総括表

Table with columns: 格子点ID, 調査年月日, 枚中, 枚目

1 林分構成(現地確認)

Table for forest composition with columns for tree type, diameter, height, and other characteristics.

2 プロットに関する特記事項(複数回答)

立木調査において枯損、損傷、異常が多く発生した場合は、特に注意して要因を確認し、記入するとともに、被害の写真を撮影する。

Table for special notes regarding plots, including insect damage, weather damage, and other observations.

様式4 伐根調査表

Table with columns: 格子点ID, 調査年月日, 枚中, 枚目

※ 過去5年以内に新たに出現した(ナンバータブまたはペイントがされていない)伐根のみを対象とする。

※ 伐根径: 伐採面の高さが山側の地際20cm以下の場合には伐採面の直径、20cmより高い場合は山側の地際20cmの位置の直径を計測する。

Table for logging investigation with columns for area, diameter, and other details.

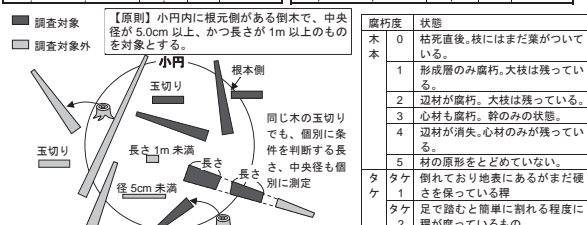
大円部0.06ha内の伐根径(cm、小数第1位まで) ※伐根径18.0cm以上を計測

Table for logging investigation with columns for area, diameter, and other details.

様式5 倒木調査表

Table with columns: 格子点ID, プロット, 倒木有無

Main table for fallen tree survey with columns for diameter, length, cause, and condition.



様式6 土壌侵食及び下層植生調査表

Table with columns: 格子点ID, 調査年月日, 担当者, 枚中, 枚目

【調査設置の注意点】 ※ 全樹が森林の植生調査のみを対象とする。

【土壌侵食調査の注意点】 ※ 林床被覆率: 草本層に加えて、根系、植物遺体、コケ類など何らかの植物由来の被覆が地表に占める面積割合。

【下層植生調査の注意点】 ※ 高さ: 植生調査区内の低木層・草本層の高さ。

※ 植物種: 植生調査区内に発生が出現した種名。植生調査区に発生しなくても調査区外に発生する種も記録する。

※ 階層: 各植物種が主に存在する階層。低木層S、草本層Hから選び、○を付す。高木層、亜高木層に存在する着生植物、寄生植物、つる植物は、「他」に○を付す。

※ 被度: 植物種ごとに、植生調査区にかかる樹冠、葉群の投影面積率を+・1・2・3・4・5のいずれかの階級に当てはめ、記録する。

※ 植生調査区外の植物種を植生調査区の植物種欄に記載しない。その場合は「植生調査区外の特記種」欄に記載する。

Main table for soil erosion and undergrowth survey with columns for soil erosion, undergrowth, and vegetation.

様式7 資料調査表(面積最大の小班)

|       |         |     |
|-------|---------|-----|
| 格子点ID | 資料調査年月日 | 担当者 |
|-------|---------|-----|

1 調査プロットに関する情報(※前回調査の確認 入力プログラムから前回調査の値が出方される)

|      |        |         |        |         |   |
|------|--------|---------|--------|---------|---|
| 標高   | m      | 車道からの距離 | m      | 集落からの距離 | m |
| 表層地質 | (出典: ) | 土壌型分類   | (出典: ) |         |   |

2 森林簿情報(地籍名以下は面積最大の小班のみについて記載)

|   |  |                       |    |           |         |    |
|---|--|-----------------------|----|-----------|---------|----|
| 林小班   | 面積最大   | 林班                    | 小班 | その他       | 林班      | 小班 |
| 地籍名   | 都道府県   | 市                     | 町  | 村         |         |    |
| 森林法上の区分   | 5条森林<br>(地域森林計画対象)   | 7条の2森林<br>(国有林森林計画対象) |    |           | 計画対象外森林 |    |
| 土地所有区分  | 林野庁・防衛省・環境省・財務省・その他国有林( )  |                       |    |           |         |    |
|   | 都道府県・市町村・その他公共団体・財産区・林業公社等・森林組合<br>森林農地整備センター・会社・学校・社寺・入会林野・部落有・共有<br>その他団体・個人・その他民有林・国立大学法人・その他独立行政法人 |                       |    |           |         |    |
| 土地所有者と異なる国、自治体、公社、森林農地整備センターが管理を行う場合<br>その名称( ) |  |                       |    |           |         |    |
| 地域指定の種類   | 制限林  | なし・あり[名称]             |    |           |         |    |
|   | 制限林以外  | なし・あり[名称]             |    |           |         |    |
| 伐採方法の指定   | なし・あり[択伐(復層伐、漸伐を含む)・禁伐]  |                       |    |           |         |    |
| 森林簿上の林種(地種)                                     | 人工林・天然林・伐採跡地・未立木地・竹林<br>その他( )   |                       |    |           |         |    |
| 林種細分  | 育成単層林・育成複層林・天然生林・なし(林種が人工林、天然林以外)  |                       |    |           |         |    |
| 森林簿上の樹種(10種まで)                                  | 旧区分  |                       |    | 森林簿上の樹種   |         |    |
|   | 水土保全林(国土保全・水源かん養)<br>森と人との共生林(自然維持・森林空間利用)・資源の循環利用林  |                       |    | 年・林齢なし    |         |    |
| 機能類型区分  | 山地災害防止・自然維持・森林空間利用・快適環境形成・水源涵養   |                       |    |           |         |    |
|   | 水源かん養・山地災害防止・土壌保全・快適環境形成・保・レクリエーション・文化・生物多様性保全・木材等生産・空白・その他( )   |                       |    |           |         |    |
| 施業履歴(過去5年間)                                     | 皆伐・択伐(復層伐、漸伐を含む)・間伐  |                       |    | 年月        |         |    |
|   | 除伐・下刈・枝打・その他( )  |                       |    | 年月        |         |    |
| 施業履歴(過去5年間)                                     | 皆伐・択伐(復層伐、漸伐を含む)・間伐  |                       |    | 年月        |         |    |
|   | 除伐・下刈・枝打・その他( )  |                       |    | 172/248 月 |         |    |

## 森林生態系多様性基礎調査

# データ入力プログラム

## 使用マニュアル

Ver. 20180531

平成30年5月

林野庁 計画課

目次

|   |   |
|---|---|
| 1. 森林生態系多様性基礎調査データ入力プログラムについて.....          | 1 |
| 1.1. 動作環境.....                              | 1 |
| 1.2. プログラム構成.....                           | 1 |
| 2. セットアップ作業.....                            | 2 |
| 3. 一般調査用入力プログラムの操作方法.....                   | 3 |
| 3.1. プログラムのメニュー.....                        | 3 |
| 3.2. プログラムの起動.....                          | 3 |
| 3.3. データの入力.....                            | 4 |
| 3.4. データチェック.....                           | 4 |
| 4. 項目別調査用入力プログラムの操作方法.....                  | 4 |
| 4.1. 一般調査用入力プログラムとの違い.....                  | 4 |
| 4.2. データの入力.....                            | 4 |
| 5. データの操作.....                              | 5 |
| 5.1. バージョンアップ時のデータ移行.....                   | 5 |
| 5.2. 入力データの統合.....                          | 6 |
| 5.3. エクセル出力.....                            | 6 |
| 6. 格子点の様式の一括印刷.....                         | 6 |
| 6.1. 格子点の全ての様式を一括印刷する.....                  | 6 |
| 6.2. 印刷できない場合.....                          | 6 |
| 7. ユーザー設定植物リストの登録.....                      | 6 |
| 8. 入力データの提出.....                            | 7 |
| 8.1. バックアップについて.....                        | 7 |
| 9. プログラム利用にあたっての不明点及びトラブル発生時の問い合わせについて..... | 7 |

1. 森林生態系多様性基礎調査データ入力プログラムについて  
「森林生態系多様性基礎調査データ入力プログラム」は、森林生態系多様性基礎調査の調査データの入力、チェックを行うプログラムです。

1.1. 動作環境

- 対応 OS (日本語オペレーティングシステム) : Windows7, Windows10
- 必要なソフトウェア : Microsoft Access (2007, 2010, 2013, 2016 のいずれか) の 32bit 版が導入されている PC で動作します(最新のサービスパックが適用されている必要があります)。※Microsoft Office を 64bit 版でインストールした PC では、動作が不安定となる場合がありますため使用を避けてください。
- ハードディスクの空き容量 : 何もデータを入力していない状態で、概ね 85MB 程度の空き容量が必要です。データ入力によりファイルサイズが大きくなりますので、十分な空き容量(画像サイズによって 1.5GB~5GB 程度)を確保して下さい。
- 表示モニタは XGA (画面解像度 1024x768 ピクセル) 以上の高解像度のものが必要です。SVGA (800x600 ピクセル) 等の低解像度では、画面全体が表示されません。
- 林野庁へのデータ提出用に CD-R ドライブが必要です。

1.2. プログラム構成

- 一般調査用と項目別調査用の2つのプログラムに分かれています。それぞれ、該当するプログラムにデータを入力してください。



図1 一般調査用と項目別調査用メニュー画面



## 2. セットアップ作業

入力プログラムには、セットアッププログラムは付属しておりません。下記の手順によりご使用のPCに導入して下さい。一般調査用、項目別調査用とも操作手順は共通です。

作業を行うPCにMicrosoft Accessが導入されている場合は、以下の手順でプログラムを導入します。

作業を行うフォルダをあらかじめ作成しておき、そこにヘルプデスクからダウンロードした「多様性基礎調査一般（項目別）入力プログラム XXXXXX.mdb」をコピーします。

※配布メディアがCD等であった場合、CDからコピーしたときに、ファイルの属性が「読み取り専用」になっている場合は、入力作業ができませんので読み取り専用属性をはずして下さい（ファイルの属性は、マウスの右クリックで確認できます）。

## 3. 一般調査入力プログラムの操作方法

### 3.1. プログラムのメニュー

プログラムは、大きく分けて、①データの入力、②データのチェックの2つの作業メニューから構成されています。この他、データの最適化、暫定版入力プログラムからのデータ移行等のメニューがあります。

### 3.2. プログラムの起動

作業を行うフォルダにコピーした「多様性基礎調査一般入力プログラム XXXXXX.mdb」をクリックしてプログラムを起動します。起動すると、初期メニュー画面が表示されます（図2）。

初期メニュー画面は、いくつかのメニューボタンにより構成されています。それぞれのボタンの機能は下記のとおりです。

「データの入力」は、調査データの入力を行います。

「データの一括チェック」は、入力済みのデータについてチェックを行います。各様式のデータ入力状況をチェックし、問題があるか否かを判定します。（3.4参照）

「最適化」は、データベースの最適化を行います。

「終了」は、プログラムを終了します。

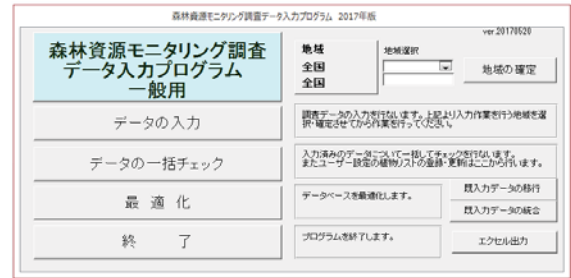


図2 初期メニュー画面

### 3.2.1. 地域の確定

入力作業を始める前に、入力作業を行う地域を選択・確定します。初期画面の右上の「地域選択」をクリックし、地域を選択・確定させます（図3）。「全国」を選ぶと、すべての格子点が入力可能となります。「都道府県」「森林管理局」を選択すると、該当する都道府県もしくは森林管理局の格子点のみが入力可能となります。初期値は「全国」になっていますので、入力対象の格子点に間違いがないようにするため、入力前に必ずこの作業を行って下さい。

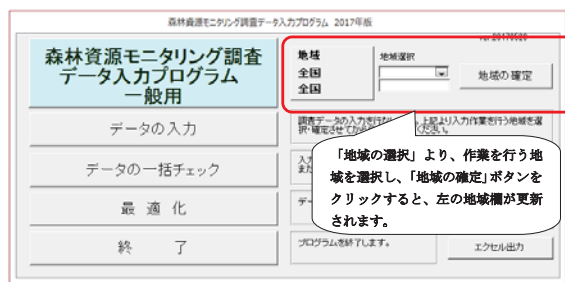


図3 地域の選択・確定

### 3.3. データの入力

#### 3.3.1. 「様式1 調査計画・進捗状況表」の入力

初期メニュー画面の「データの入力」ボタンをクリックし、様式1「調査計画・進捗状況表」の画面を開きます（図4）。



図4 「様式1 調査計画・進捗状況表」の画面

#### (1) 位置情報の表示切り替え

格子点IDの位置情報として、初期状態で世界測地系（JGD2000）の経緯度と座標が表示されますが、「旧日本測地系」のボタンを押すと、旧日本測地系（東京測地系）の経緯度と座標に切り替え表示されます（図5）。



図5 測地系の切替表示

#### (2) カーソルの移動方法

各格子点IDのレコード間の移動及びレコード内の各項目（フィールド）間の移動は、上下左右のカーソルキーを用いて行うことができます（マウスも利用可能です）。ページ単位でのスクロールは、[PageUp]あるいは[PageDown]で行います。

#### (3) 調査計画・実施情報の入力

##### ① 調査定点等のチェック

調査計画段階において、調査定点に決定した格子点については、「調査定点」のチェックボックスをチェックして下さい。

現地調査を実施した格子点は、「現地調査実施」のチェックボックスをチェックして下さい。

様式1-1以降のデータ入力を行う場合、調査定点、現地調査実施の2箇所ともにチェックする必要があります。

##### ② 民国の入力

「民国別」欄のプルダウンリストをクリックし、民有林の場合は「都道府県」、国有林の場合は「森林管理局」を選択します。「都道府県」「森林管理局」を選択すると、さらに都道府県名又は森林管理局名を選択するポップアップリストが出ますので、該当する都道府県名あるいは森林管理局名を選択・クリックすると、「都道府県名又は森林管理局名」欄に入力されます（図6参照）。